

平成31年4月

The Roads Of
ISHIKAWA 2019

いし
がわの
道
2019



石川県観光PR
マスコットキャラクター
ひやくまんさん

石川県
石川のかがやく未来を
支えるみちづくり

石川県土木部道路建設課
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL.076-225-1721 FAX.076-225-1723
ホームページ <http://www.pref.ishikawa.lg.jp>

リサイクル適性(A)

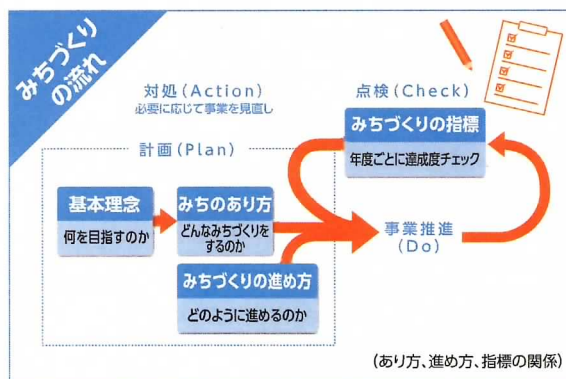
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

石川のみちづくり指針

東日本大震災の発生や道路施設の老朽化など、道路を取り巻く環境は大きく変わりつつあります。また、北陸新幹線金沢開業効果を持続・発展させ、人やものの交流を一層盛んにしていく必要があります。

こうした中、平成27年3月に、今後、概ね10年間のみちづくりの方向性を示した新たな「石川のみちづくり指針」を策定しました。

関係機関にも協力を求めながら、今後のみちづくりを進めていきます。



石川のかがやく未来を支えるみちづくり

本県がより一層かがやき、未来へ持続・発展していくため、これを支えるみちづくりを進めます。

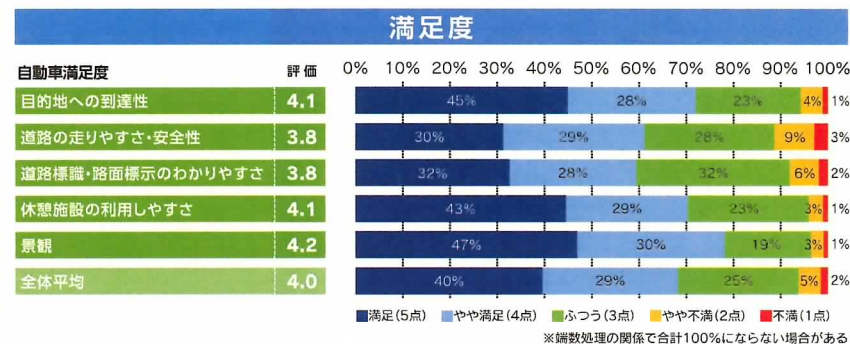


みちづくりの進め方 県民と共に、効率的・効果的に進めるみちづくり

いしかわ道の通信簿

石川のみちづくり指針に位置づけた道路利用者のニーズ反映を図るため、平成27年度から県内の道路利用者を対象とし、道路に対する評価とご意見をお聞きする満足度調査「いしかわ道の通信簿」を実施しています。

平成30年度調査結果



いただいた主なご意見

- 評価するご意見**
- 目的地までスムーズに移動ができて良かった。
 - 道路からの景観(里山里海)がきれいだった。

- 改善を求めめるご意見**
- 道路幅が狭く走りにくい。
 - のと里山海道などの幹線道路を4車線化してほしい。

評価するご意見の具体的な事例

- 道路からの里山里海の景観がきれい。景観に配慮した防護柵への改修などにより道路から見える良好な景観の創出に取り組んでいます。



▲国道249号(珠洲市真浦町)

改善を求めめるご意見に対する具体的な対応

- 洋式トイレの数を増やしてほしい。

トイレが古くて狭かった。 **対応**

ドライブ休憩施設のトイレの洋式化や老朽化に伴う改修を実施。



▲のと里山海道 志雄パーキングエリア

平成31年度もアンケートを実施しています。ぜひご参加ください!

HPからアンケートページにアクセスしてご参加ください。

いしかわ道の通信簿 検索

「いしかわ道の通信簿」URL <http://www.pref.ishikawa.jp/douken/michinotsushinbo/>

QRコードでHPに簡単アクセス!



石川県のプロフィール

位置と地勢

石川県は本州日本海側のほぼ中央に位置し、東は富山、岐阜の両県、南は福井県に接しており、地形は南北に細長く、北に向かって能登半島が日本海に突出しています。

広大な原生林と豊富な高山植物群を誇る白山国立公園、美しく長い海岸線を持つ能登半島国立公園や越前加賀海岸国立公園、さらには数多くの温泉や兼六園に代表される名所旧跡など、豊かな自然と風土に恵まれております。四季は変化に富み、特に冬には美しい雪の情景が演出されます。総面積は4,186平方キロメートルで、47都道府県のうち第35位の広さです。

石川県のシンボル

◎県鳥/イヌワシ



主に霊峰白山に生息するワシ科最大級のワシ。「躍進する石川」のシンボルの鳥として、昭和40年1月1日制定。

◎県木/アテ



能登地方で多く植林されている常緑針葉樹ヒノキアスナロの地方名。輪島漆器の生地や建築材などに使われます。

◎郷土の花/クロユリ



本州中部以北、標高2,300~2,500mの草原に自生する可憐な花。白山弥陀ヶ原や室堂平に群生が見られます。

石川県のデータ

項目	石川県全体	全国順位
面積	4,186km ²	35
人口	1,147,465人	34
人口密度	274人/km ²	23

平成28年10月1日 総務省統計局HP 国土地理院HPより

道路現況表

道路種別	路線数	実延長(km)	規格改良延長(km)	規格改良率(%)	舗装済延長(km)	舗装率(%)	
高速自動車国道	1	67	67	100.0	67	100.0	
国道	指定区間	5	202	202	100.0	202	100.0
	指定区間外	11	421	401	95.2	418	99.0
	国道計	14	623	603	96.7	619	99.4
県道	主要地方道	52	980	818	83.5	972	99.1
	一般県道	162	927	694	74.8	907	97.9
	県道計	214	1,907	1,512	79.3	1,879	98.6
国道県道計	228	2,530	2,115	83.6	2,498	98.8	
県管理道路	225	2,328	1,913	82.2	2,297	98.6	
市町村道	34,095	10,569	7,933	75.1	9,546	90.3	
合計	34,327	13,098	10,047	76.7	12,044	92.0	

※路線数の計が合わないのは、同一路線で指定区間部分と指定区間外部分があるため
※規格改良の履歴で計があわないことがある ※独立の専用自動車道(自転車道)は除く 道路現況調査より 平成30年4月1日現在

橋梁長 ベスト10	
1 能登大橋 七尾能登橋公園	1,050.0m
2 内日角大橋 七尾宇ノ丸線	887.0m
3 川北大橋 金沢小松線	521.1m
4 萬田2号橋 国道470号(能登自動車道)	514.0m
5 大津大橋 金沢小松線	499.7m
6 能登大橋 七尾能登橋(のと里山街道)	430.3m
7 乙丸大橋 内野崎安江町線	422.3m
8 飛山大橋 金沢井浜線	419.0m
9 手取川橋 松任手取線	406.4m
10 美川大橋 金沢美川町線	398.0m

トンネル長 ベスト10	
1 百十九郎トンネル 羽咋市	1,436.0m
2 中樫トンネル 輪島市	1,259.5m
3 五郎橋トンネル 白山市	1,110.3m
4 日谷尾トンネル 加賀市	1,061.6m
5 雁文山トンネル 中能登町	895.6m
6 能島トンネル 白山市	859.5m
7 北河内トンネル 輪島市	806.0m
8 清水田原トンネル 金沢市	802.0m
9 丸山山道トンネル 加賀市	795.0m
10 鶴ヶ谷トンネル 白山市	782.9m

(橋梁、トンネルは県管理のもの) 平成30年4月1日現在

県内各地の地勢

金沢 KANAZAWA

金沢は加賀百万石の城下町。金沢城の搦手門であった石川門など、数々の史跡や神社仏閣が残り、往時の面影が今なお息づいています。



金沢城石川門

加賀 KAGA

四大温泉で知られる加賀は北陸路を代表する観光地。柴山瀧の湖畔に臨む片山津温泉、2つの総湯の周りに温泉宿が立ち並ぶ山代温泉、山中節と溪谷美の山中温泉、開湯1300年の歴史がある北陸最古の粟津温泉とそれぞれに違った風情が味わえます。



山中温泉 ころぎ橋



能登 NOTO

立国1300年を迎えた能登は、世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」の原風景や波打ち際を車で走れる千里浜なぎさドライブウェイなど、多彩な魅力に満ちています。



千里浜なぎさドライブウェイ

白山 HAKUSAN

富士山、立山と並ぶ日本三名山のひとつ白山。霊峰の名の如く神秘的で雄大な美しさをたたえています。山歩きや溪流釣りにスキー、そして季節ごとのイベントと1年中存分に楽しめるのも魅力です。



白山連峰

見附島

みち 「ダブルラダー輝きの美知」構想

「ダブルラダー輝きの美知(みち)」構想では、これまで2本のまじご状に構築してきた道路ネットワークを活かし、南北幹線の骨太化に加え、東西幹線の追加により、県土を隈無く網羅する幹線道路網の形成を図ることで、県土の更なる一体化や北陸新幹線開業効果の県下全域への一層の波及、大規模災害時の迅速な避難・救援活動の実現を図ります。

「ダブルラダー輝きの美知」構想 構成路線

南北幹線

- 北陸自動車道
- 能越自動車道
- 東海北陸自動車道
- 珠洲道路
- 輪島道路
- のと里山海道
- 国道249号
- 国道159号
- 河北縦断道路
- 月浦白尾IC連絡道路
- 金沢外環状道路
- 加賀産業開発道路
- 加賀海浜産業道路
- 国道8号
- 中部縦貫自動車道連絡道路(国道157号、国道416号)
- 南加賀道路
- 国道364号

東西幹線

- 奥能登絶景海道
- 奥能登横断道路
- 門前道路
- 中能登横断道路(福浦港中島線、富来中島線)
- 能登中核工業団地 徳田大津インター線
- 七尾道路
- 七尾外環状道路
- 国道415号
- かほく東西幹線道路
- 国道8号(舟橋～県境)
- 金沢福光連絡道路(国道304号、金沢井波線、金沢湯涌福光線)
- 加賀産業連絡道路(川北縦貫道路、能美東西連絡道路)
- 小松白川連絡道路
- 中部縦貫自動車道



1 時間距離の短縮により 県土の一体化を図ります。

- 県内各地に至る時間距離を短縮し、細長い県土のさらなる一体化を推進します。
- ゆずりレーンや幅広い路肩の設置により、安全で快適な移動を確保します。

2 陸・海・空の交流拠点との連携強化を図ります。

- 鉄道、港湾、空港と道路との連携強化により、人・ものの円滑な移動を確保します。

3 隣県や三大都市圏との広域交流圏を形成します。

- 隣県や三大都市圏へのアクセスを強化し、広域観光圏の形成や広域交流を促進します。

4 能登・金沢・加賀各地域を巡る回遊性を向上します。

- 魅力ある観光地相互の連携を強化し、県内各地を巡る回遊性を向上します。

5 緊急時の道路ネットワークを確保します。

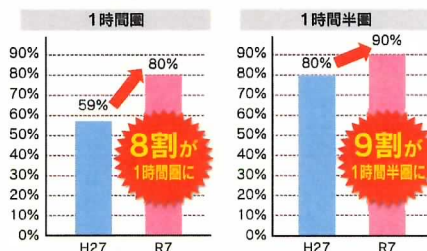
- 骨太で多重な幹線道路ネットワークを確保し、緊急時の迅速な救急・支援活動を支えます。

期待される効果

■能登を通勤可能生活圏へ

能登・金沢の時間距離を更に短縮し、能登から金沢への通勤を可能とします。

■能登地域*から金沢への通勤可能人口の割合



■金沢港と加賀地域の拠点性の強化

金沢港へのアクセスを向上し、金沢港の振興と加賀の企業立地促進を通じた拠点性の強化を図ります。



完成箇所



▲かほく東西幹線道路(1期区間)



▲南加賀道路(粟津ルート)

あり方 1

人とももの交流を盛んにする活力あるみちづくり

細長い県土の一体化による県内各地の時間距離の短縮 陸・海・空の交流拠点との連携強化

北陸新幹線開業効果を持続・発展させるために、細長い県土の一体化により、県内各地の時間距離を短縮するとともに、鉄道・港湾・空港などの交流拠点へのアクセスを強化するなど、移住・定住の促進や産業・雇用の創出を支援するみちづくりを進めます。



※供用区間以外のIC名は仮称

富山・福井・岐阜、三大都市圏との広域ネットワークの構築

高規格幹線道路・地域高規格道路の整備

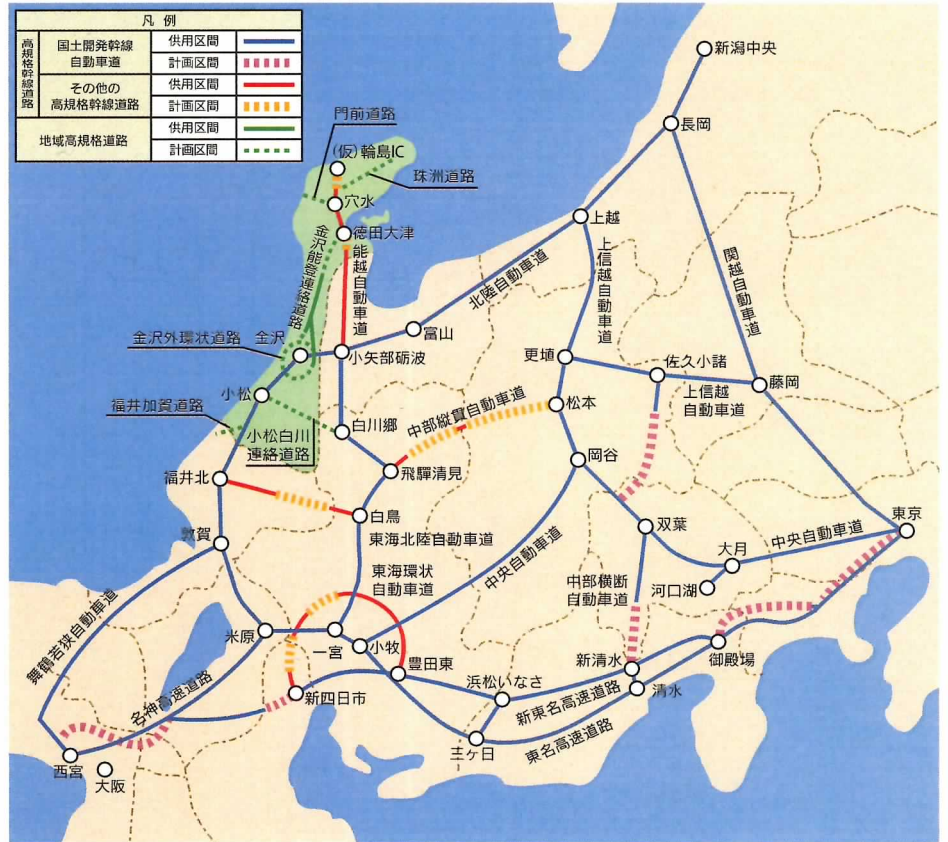
広域交流を推進するため、三大都市圏との近接性を高める高規格幹線道路や、高規格幹線道路を補完し、地域相互の交流や空港・港湾への連絡等を強化する地域高規格道路の整備を進めています。

金沢から三大都市圏への所要時間

	東京	大阪	名古屋
現在 (平成31年4月1日)	5時間20分	3時間20分	2時間30分 ※2
将来 ※1	4時間40分	3時間20分	2時間20分

※1 将来とは、東海北陸自動車道・中部縦貫自動車道が計画通りに完成した時点。 ※2 金沢西IC～一宮IC

石川県に関連する高規格幹線道路と県内の地域高規格道路



平成31年4月1日現在

観光資源としての「みちの価値」の向上

無電柱化を核とした街なみ景観の形成

- 街の個性や魅力を高めるため、無電柱化を核とした魅力ある美しい街なみ景観の形成に取り組んでいます。
- 無電柱化にあわせ、地域の特性を踏まえ、
 - ◇ 道路空間……舗装や照明など
 - ◇ 沿道空間……沿道建物の保全・修景や屋外広告物の整理統一などとのバランスと調和の取れた景観づくりに取り組んでいます。
- 無電柱化を核とした街なみ景観の形成においては、地域住民等で構成する「まちづくり協議会」を設立し、地域の意見を取り入れ、沿道建物の保全・修景や屋外広告物の整理統一、舗装・照明・緑化などの道路修景に官民協働で取り組んでいます。



▲都市計画道路 湯元和倉温泉駅線



▲まちづくり協議会の様子

「能登・金沢・加賀」各地域を巡る回遊性の向上①

いしかわの優しい美知整備

幹線道路から県内各地の様々な名所へと繋がる道においては、平成29年度より「いしかわの優しい美知整備」として、急カーブを解消する局所的な道路改良や路肩の拡幅、案内誘導の改善など、きめ細かな道路整備を進め、石川を訪れる方々や地域の方々の利便性・安全性の向上を図っています。

道路の走行性や安全性の向上

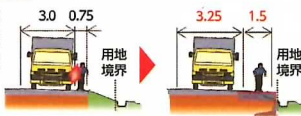
1 ピンポイント改良

すれ違い困難や局所的な線形不良を解消し、走行性、安全性を向上(急カーブ緩和、見通し確保)。



2 道路空間の再配置

既存道路用地を活用した路肩拡幅や植樹帯の撤去により、走行性、安全性を向上。



わかりやすい案内

3 案内誘導の改善

交差点内の進行方向を予告する路面標示や、案内標識などを充実。



4 標識の視認性の確保

巨木化、繁茂した街路樹の間引きや撤去により、標識の視認性を向上。



調和の取れた沿道景観の創出

5 道路施設の改修や防草対策

景観に配慮した防護柵への改修や防草コンクリート施工により道路から見える良好な景観の創出。



「能登・金沢・加賀」各地域を巡る回遊性の向上②

いしかわ里山里海サイクリングルートの整備

観光誘客の新たなツールとして、本県の豊かな自然、美しい里山里海の景観、観光地や県民のおもてなし等を堪能いただけるサイクリング環境の整備に取り組んでいます。

● 取り組み事例

- ・路面標示によるルート案内
- ・道の駅等へのサイクルラックの設置
- ・道の駅等へのサポート体制を表示した看板の設置
- ・ルートマップの作成
- ・ホームページ、SNSによる情報発信



▲路面標示によるルート案内



▲サイクルラック、サポート施設案内看板



モバイルスタンプラリー

石川県内の市町と協力し、サイクリングとスタンプラリーを楽しみながら、いしかわの魅力を再発見する「モバイルスタンプラリー」を実施します。

サイクリングルートを走行して、68箇所あるチェックポイントでスタンプを獲得し、アンケートに答えると、地域の特産品などのプレゼントに応募できます。

実施期間 2019.4.27~11.30



GooglePlay



AppStore

- 1 専用アプリをインストール
 - 2 体験ルートを利用する
 - 3 チェックポイントのウェルカム看板のQRコードを読んでスタンプGET
 - 4 スタンプを2個以上貯めて
 - 5 アンケートに答えてプレゼントに応募
-

あり方 3

生命・生活を守る強くしなやかなみちづくり

災害被害の最小化に向けた防災・減災対策の強化

道路は、平常時には人やものの広域交流を拡大させるとともに、災害時には、救命・救助活動や救援物資などの緊急輸送において重要な役割を担っています。

県では、災害発生時にも道路ネットワークが確保できるよう緊急輸送道路にある橋梁や斜面の防災・減災対策を進め、機能強化を図っています。

橋梁地震対策

橋桁の落下を防ぐための「落橋防止対策」や橋脚の倒壊を防ぐための「橋脚耐震補強」について、緊急輸送道路にある365橋の整備を優先的に進め、災害時の道路ネットワークの確保に努めています。



▲のと里山海道(七尾市中島町北免田 熊木川橋)

斜面崩落対策

豪雨時に通行止めを実施する「事前通行規制区間」や緊急輸送道路において対策が必要となる緊急度の高い293箇所から、斜面の土砂崩落や落石を未然に防ぐ防災対策を進めています。



▲主要地方道 能都内浦線

交通安全の強化

通学路の交通安全対策

登下校中の児童生徒を守るため、各自治体が「通学路交通安全プログラム[※]」の策定を行い、学校関係者、地域住民、警察、道路管理者等が連携して、通学路の合同点検を実施するなど、継続的な通学路の交通安全の確保に取り組んでいます。

※県内の全19市町で策定済み



▲一般県道 七尾鹿島羽咋線 (中能登町立鹿島小学校)(防護柵の設置)

冬期の交通確保

雪対策

冬期における産業経済活動や通勤通学などの日常生活を支えるため、迅速で適切な道路除雪、凍結防止剤散布及び消融雪装置の整備に取り組んでいます。

特に大雪時には、道路管理者間で専用サイトの共有により速やかに情報を共有し、除雪作業の連携を図ることで、冬期交通の確保に努めています。



▲道路除雪の状況

「石川の雪みちなび」による情報提供

パソコン・スマートフォン・携帯端末で閲覧できる県HP「石川の雪みちなび」において、道路監視カメラ画像や積雪量の情報などを掲載し、雪道での安全運転の一助となるよう情報提供をしています。



▲スマートフォン版



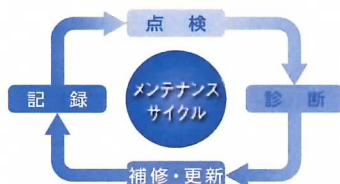
▲パソコン版

あり方 4

次世代へつなぐ接続可能なみちづくり

道路ストックのメンテナンスサイクルの確立

県では平成26年から6種類の道路施設について、5年に1回の近接目視による点検や、健全性の診断を4段階に区分することにより、メンテナンスサイクルを構築し、道路施設を次世代に健全な状態で継承していく体制を確立します。



▲メンテナンスサイクルのイメージ



▲近接目視による点検 ▲計画的に補修

点検が義務化された道路施設

- 橋梁(2m以上)
- シェッド
- トンネル
- 横断歩道橋
- 大型カルバート
- 門型標識

計画的な道路ストックの長寿命化

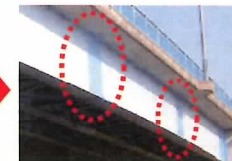
道路構造物の補修については、これまでの壊れたら直す「事後保全型」補修から、損傷が軽度な段階で小規模な補修計画を計画的に繰り返す「予防保全型」補修に転換することで、道路構造物の長寿命化を図り、将来の補修・更新費を縮減する取り組みを進めています。

県管理橋梁、シェッド、トンネルなどについては高度経済成長期に建設されたものが多く、今後、高齢化が進行していくことから、計画的に補修、老朽化対策に取り組んでいます。

橋梁



▲事後保全型補修(全塗装補修)



▲予防保全型補修(部分塗装補修)

シェッド



▲塗替え後

トンネル



▲覆工コンクリートのひびわれ

石川県道路メンテナンス会議

県内全ての道路管理者で構成する「石川県道路メンテナンス会議」を設立し、点検・補修などの状況把握と情報共有を図るとともに、市町職員を対象に橋梁等の点検講習会の実施や、技術的な助言を行うなど、市町の技術向上等による早急な対策の推進を目的とした支援を積極的に行っています。



▲点検講習会の様子



▲石川県道路メンテナンス会議の様子

TOPIC 1日橋守隊

県では橋梁補修工事の必要性をPRするため、平成20年度から地元小学児童を対象とした体験学習会「1日橋守隊」を開催しています。橋への愛着と、公共施設を大切に使う心の育成を目的としており、平成30年度は、3月5日に輪島市の谷内橋において、高欄の塗装体験を行いました。



豊かな暮らしを支える快適なみちづくり

円滑な自動車交通の確保

すいすい交差点整備

渋滞の著しい交差点において、既存道路の幅員構成を見直し、中央分離帯や植樹帯を活用することにより、新たな車線を確保する「すいすい交差点整備」に取り組んでいます。



▲一般県道 金沢停車場南線(増泉3丁目交差点)(右折レーンの設置)

公共交通の利用促進

公共交通の利用促進を図るため、「バス専用レーン」の拡大や「パーク・アンド・ライド」の推進など、バスの走行環境の改善や利便性の向上に取り組んでいます。



▲金沢駅東口(バス専用レーンの設置)

▲パーク&ライド看板

歩行者・自転車利用者にやさしいみちづくり

自転車通行環境整備

通勤・通学等で、自転車利用の多い道路では、歩行者、自転車、自動車のそれぞれが安心して通行できる道路空間を創出するため、地域の実情に応じた自転車通行環境の整備に取り組んでいます。



▲主要地方道 金沢井波線(自転車走行指導帯の整備)

地域活性化の支援

地域の拠点施設や幹線道路へのアクセス道路、地域間連絡道路の整備を推進し、都市部や周辺地域との連携を強化するなど、地域の活性化を支援します。



▲主要地方道 山中伊切線(塔尾バイパス)

TOPIC 自動運転の実証実験

自動運転の実現に向け、全国で実証実験が進められています。自動運転技術の実用化により、安全性の向上、運送効率の向上、新たな交通サービスの創出等が図られ、大幅な生産性向上に資する可能性があります。



▲金沢大学による実証実験(珠洲市)

TOPIC ICT建機の活用

建設現場において経験の浅い若手技術者が活躍できる環境づくりを目指して、簡単な操作を行うだけで、自動制御で設計どおりに動くICT建設機械を用いて、より効率的で安全な工事を進めています。



▲法面整形

▲モニターのイメージ図